伝えたい

まちの遺産

美しい自然とさまざまな歴史文化遺産を持つ南越前町。先人の豊かな感性とたゆみない努力によって築かれたこれらの歴史は町の財産です。このコーナーでは町の歴史や文化をご紹介していきます。

【歴史の道】 南越前町は、古くから北陸と京の都、あるいは越前と若狭を結ぶ陸路、海路の要衝でした。

陸路では、北陸の幹線道である北陸道（北国街道）をはじめ西街道（馬借街道）、朝倉街道などの道路網が整備され、海路では、越前国府から敦賀湊までの中継点として河野・今泉浦、甲楽城浦などを利用した海上交通が開けていました。

それら様々な交通網の発達により、街道沿いには今庄、鯖波、脇本といった宿駅が整備されるとともに、国境（郡境）には番所が置かれ、当時の面影を残す旧所・名跡が数多く残っています。

▶木ノ芽峠に残る北陸道の石畳

【町並み】 江戸時代に宿場町として栄えた今庄には、参勤交代などで大名が滞在した本陣跡や旅人が宿泊した旅籠、問屋、酒屋などの家々が点在し、旧街道の両側には深い軒や袖壁、格子などの伝統的な表構えを持つ町屋が南北約1.5kmにわたって軒を連ねています。

また、日本海5大船主ともいわれた右近家や中村家をはじめ、多くの船頭や水主を輩出した河野集落でも、旧道沿いには北前船主邸や土蔵が残り、北前船廻船稼業で繁栄した河野浦の様子がうかがえます。

【城　跡】 城跡というと仙山城や燧ケ城などが有名ですが、町内では18カ所の城跡や館跡が見つかっています。合戦が起こるたびに軍事上の要となる位置や、街道・峠・国境を押さえられる場所を選んで築かれました。これらはほとんどが山中に築かれた山城で、福井城や丸岡城のように天守閣を持つ江戸時代の城よりも古い時代の城跡です。

伝えたい

まちの遺産

北陸の宿場町だった今庄地区今庄には、今も造り酒屋や商店など当時栄えた時代の町屋がその面影を残しています。

その一つ、京藤甚五郎家は、町が建物、敷地全ての寄付を受け、町の資産とし活用していきます。

天保年間の造り酒屋　京藤甚五郎家

【うだつの上がった古い家】

家屋は、木造瓦ぶき二階建て、延べ244㎡で一階七室、二階に二室の部屋。建築年代は、江戸時代の文政元年（1818年）今庄の大火の後に建てられたのではと言われ、仮建築の後、今庄宿で酒造業を営んでいた幕末の絶好調の折、先々代甚五郎の父（蓮二氏）が思い切った投資で設計、建築部材や室内意匠（欄間など）には随所で凝った点が見られ、当時でも自慢に値する吟味したもの。厚い壁と土戸で周囲を覆った本格的な土蔵造りで、屋根にはうだつ（大屋根の両側の小屋根―繁栄の象徴）を上げ、完全防火構造となっています。

【造　り】 主屋の左に前庭と通常出入りする玄関とは別に式台（板敷き）を持ち、奥に座敷を配置する本陣形式で、部屋は厚い壁で仕切られています。玄関の戸を開け、高い敷居をまたぐと土間。続いて台所と板の間。泥棒が昔、寝ていたともされる太い梁は弓なりに組み上げられ、その下にいろりの跡があります。大黒柱には特大寸のものを据え、豪華さを表現してあります。

【歴　史】 京藤家は参勤交代の時は脇本陣格であったと言われています。「菱大」という屋号で造り酒屋、養蚕を営み、明治以降は金融業を営みました。幕末の歌人、橘曙覧や明治維新の立役者、岩倉具視が滞在し書いた書、武田耕雲斎率いる水戸浪士が宿泊した際の刀傷が残り、明治時代のスイス製の時計が今も時を刻んでいます。

先日訪れた京藤倫久さん（東京都在住）は、「文化や歴史はその地にあって息吹くもの。祖先が守ってきた場所で歴史を引っ張っているから価値もあり資産だと信じています。まちづくりの糧となり皆さんの心を癒す、オアシスになれば大変嬉しい」と語られていました。

伝えたい

まちの遺産

ホノケ山
―まぼろしの北陸道―

南越前町の要に当たるところにホノケ山（737m）があります。ホノケ山は昔、京の都や府中（武生）に異変を知らせたり、日本海を航行する船に位置を知らせるためのの「のろし台」があったことからこの名がついたと言われています。

ホノケ登山道案内図

第2登山口から菅谷峠（571m）までは、かつては敦賀から府中へ抜ける街道筋にあたり、途中には樹齢300年といわれるブナの原生林があります。ブナの木はたくさんの水を蓄えていることから、この辺りは「みどりのダム」と呼ばれています。

また、この中を数百mにわたって、深さ6mにおよぶ「切り通し」が続いています。数百年にわたって人馬が削り取ってできたものです。太古の昔には、この道を通って府中方面への塩が運ばれたことから「塩の道」あるいは若狭脇往来・古北陸道とも呼ばれ、軍事・経済上大事な役割を果たした道です。自然の神秘と歴史のロマンを感じさせてくれます。ですが、この道に関する確かな記録が少ないため「まぼろしの北陸道」と呼ばれています。

一向一揆との戦いに敗れ、この地で自刃した、朝倉の武将佐々布光林坊（天正2年）の墓跡や鳥山跡があり、山頂付近には越前打刃物に使った「かんじゃ炭」を焼いた、無数の床場跡もあります。

山頂からは丹南の平野や敦賀湾・日本海が眼下に見え、天気のいい日には白山連峰の山々や丹後半島が望める素晴らしい眺めです。自然が多く残る山として親しまれています。

家族向きの登山コースです。若葉が香る5～6月頃と、紅葉と落葉を踏みしめながら「切り通し」を歩く10～11月頃は、楽しさがさらに大きくなります。

ハイキングがてら、歴史の足跡をたどってみてください。

（藤木幸雄：町文化財保護委員）

伝えたい

まちの遺産

北前船主の館　右近家

右近家は、江戸時代中期から明治中期まで日本海を舞台に、北海道と大阪間の諸港を結んで商いをした北前船の船主の家です。最盛期には、北前船五大船主に挙げられています。

右近家の建物

一連の建物は、旧道を挟んで、山側に本宅と三棟の内蔵、海側に四棟の外蔵が建てられています。本宅は、明治期に天保時代の建物を拡充して建てられ、木造二階建瓦葺きで切妻造りの平入です。横手に式台口の門を配し、長い板塀で本宅を囲っています。

内部は、選りすぐりの欅の柱や、杉・檜・米松の良材を使い、商家として豪勢さをおさえた格調高い造作で、上方風の建築と言われています。奥座敷の奥には、崖を借景に北前船が各地から運んで来た銘石の庭園があり茶室もあります。海側には、長屋門を挟んで外蔵が連なり、漆喰壁を下見板で覆っています。長屋門は、海に向かい開かれていて、海に生きる船主の敬けんな祈りを表す河野独特の構えです。

背後の山上には、昭和十年に建てられた西洋館があります。鉄筋コンクリート造りの二階建で、外観は一階が欧風（スペイン）二階が北欧風（スイス）の丸太積みでバルコニーがあり、内部は和洋折衷です。さらに山上へと散策道で庭園を回遊することが出来、最高台には四阿があり日本海を一望できます。

北前船の資料館として公開

河野集落は、往時の北前船交易で繁栄した船主邸の家並みが昔のままの姿で残されていることから、旧河野村では北前船の歴史むらづくりを企画、右近家のご理解とご協力のもと、平成二年に本宅、庭園、西洋館を「北前船主の館・右近家」と命名し一般公開しました。内部外観とも文化財的価値も高く、資料展示は、右近家の北前船交易の歴史や商いの古文書や船模型、航海用具、海上安全祈願の船絵馬、アイヌ民俗など各地の文化交流の貴重な資料を展示しています。

この度、皇太子殿下のご視察を頂き光栄の極みであります。その上、河野北前船研究会へ激励のお言葉を頂き感激しました。これを機に右近家への来訪者が増加し、北前船の全国的な拠点として交流が広がることを願っています。

（河野北前船研究会長：右近了一）

伝えたい

まちの遺産

水環境と歴史的砂防えん堤を活用した地域づくり

日野川上流域にはアカタン砂防に代表される歴史的砂防えん堤が数多く存在します。一帯の地域資源を活かした「砂防パーク」づくりに向けた活動が行われています。

南越前町内には、険しい山地から流れ出る急こう配の河川が多く存在するため、過去には破壊的な水害が多発した記録が残っています。明治二十八・二十九年の豪雨は、田畑・家屋の流出が相次ぐ大被害をもたらしましたが、その後行われた福井県第一期砂防事業（明治三十三～四十年）において町内でも八カ所が砂防指定地となり、土石流対策のための砂防えん堤が数多く築かれたことで土砂災害の発生率も軽減されました。それらは、百年以上が経過した今でも自然景観に溶け込みながらその役割を果たし続けています。

高倉谷川砂防ハイク（立成４号えん堤）

古木の赤谷川に残る「アカタン」は、地元の住民グループ「田倉川と暮らしの会」を中心にえん堤の保全活動や自然学習、都市住民との交流活動などを長期にわたり展開しており、今やアカタンの名は全国的にも知られるようになりました。こうした活動が契機となり、高倉・久喜・大鶴目・広野でも同時期の砂防えん堤が相次いで発見され、それぞれの住民組織も立ち上がりました。今後は互いに連携を深め、一帯に残る歴史的砂防遺産と古道・鉱山跡・滝・ブナ林などの水源遺産を活かした「砂防パーク」づくりが計画されています。具体的な活動内容としては、

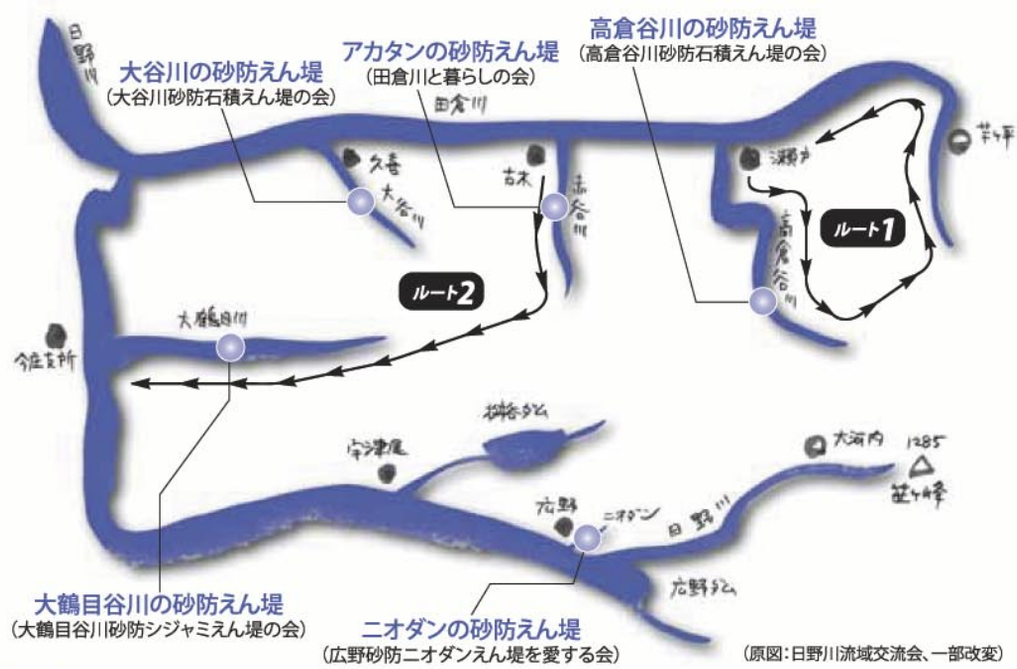
①えん堤の保全活動を含めた砂防ハイク
②砂防パークを回廊するルートの探索
③砂防パークを活用した地域づくりを考えるためのシンポジウムの開催ー

を予定しています。

アカタン砂防（松ヶ端えん堤）

ルート1 瀬戸 → 高倉谷川砂防（立成４号えん堤） → 古道（塩の道・木地師の道） → 高倉峠 → 芋ヶ平 → 瀬戸

ルート2 古木 → アカタン砂防えん堤群 → 古道 → 大鶴目谷川砂防（シジャミえん堤） → 今庄総合事務所



（原図：日野川流域交流会、一部改変）